

中静委員からの資料1-1に対する事前意見

1 P.2の新型コロナウイルス関連の記載について、ポストコロナ社会を見据え、環境を重視した生活の重要性を積極的に打ち出してもよいのではないか。たとえば、人口集中を避け、自然豊かな環境で暮らすことが大きなリスクを避けることにつながるというような面もあるのではないか。

また、P.9の(3)やP.45について、上記を踏まえ、もう少し具体的に記載してもよいのではないか。

2 P.6の定量目標の進捗状況について、「⑩日常生活における環境配慮行動」は、目標達成(◎)ではないか。

3 P.12の脱炭素都市づくりに係る現況と課題について、適応策に関する記述がほとんどないが、「進める」というだけでよいのか。

また、P.20の「⑤気候変動によるリスクに備える」について、気候変動によるリスクをどの程度把握しているのか。リスクを早急に把握するということを明確にしたほうがよいのではないか。

4 温室効果ガス排出削減目標を考える上で、森林の吸収量を推計し、明示すべきではないか。

5 P.21の自然共生都市づくりについて、目指す都市の姿として、「豊かな自然環境や生物多様性が大切にされ、その恵みが持続的に活かされるまち」とあるが、「恵み」に関する定量目標は考えられないのか。

6 P.54の「広がる！エコアクションプロジェクト」のうち、「生物多様性保全推進事業」について、生物多様性を活かした産業という観点の記載がない。

7 P.55～58の主体別の環境配慮行動の指針について、ステークホルダーごとの役割を示している点は良いが、ステークホルダー間の協働を促進するような記載や、その役割をだれが担うのかを記載したほうがよいのではないか。

また、市役所が率先して環境配慮行動に取り組むとあるが、環境マネジメントシステムの導入や、CO₂排出量の削減目標・プラスチック削減目標を明確にするなど、市の率先行動を前面に出したほうがよいのではないか。

8 P. 59～60 の山地地域における環境配慮の指針について、「自然とのふれあいの場としての活用を図りつつ」とあるが、その具体策も打ち出せるなら書き込んだほうがよいのではないか。

9 P. 60 の西部丘陵地・田園地域における配慮の指針について、「開発事業等の実施により生じた影響については、その代償措置を実施する」と踏み込んだ表現となっているが、問題ないか。

10 プラン全体に関して、幸福度や QOL のような指標をもとに、仙台における生活の充実性や快適さなどにおいて、自然環境が果たす役割を意識しつつ、それをどのようにして高めることができるのかというような分析をしたほうがよいのではないか。これにより、仙台の強み等が明確になるのではないか。「環境プラン」の範疇を超えることになるかもしれないが、そのあたりをどれだけ打ち出せるかで、新しい環境プランの特徴が出るようにも思う。